

前年度の改善方策について実行した改善結果

◎ 重 点 目 標 1	(1) 重点目標	時間：「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。
	(2) 数値による指標	「意欲的に授業に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。
	(3) 改善結果 ※学校の自己評価や学校関係者評価等の視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の上記項目の児童学校評価の数値結果は80.5%であり、目標を達成することができた。 他に「友達と一緒に考えたり、教え合ったりすることは楽しい」91%を超え、「できるようになるために自分なりに頑張っていることがある」が89%を超えるなど昨年度に引き続き将来的な自己実現に向けた素地となる現在の自分への自己肯定感をもちながら努力していることが表れている。 生活・総合的な時間での「やりたいことを実現する」活動や自由進度学習、教科担任制や授業研修等の取り組みがこれら能動的な学習者として児童像に表れてきていると分析する。
重 点 目 標 2	(1) 重点目標	空間：一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりを推進する
	(2) 数値による指標	「学校には、ほっとできる場所や時間がある」と答える児童を90%以上にする。
	(3) 改善結果 ※学校の自己評価や学校関係者評価等の視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> 児童学校評価の数値結果は、90.9%であり、前年度74%から大きく増加した。引き続き100%を目指していく。 「学校行事は楽しい」は94.8%、「学校行事は達成感がある」は89.6%と高いポイントとなっている。 引き続きありのままの子どもの姿を受け入れ、安心できる場所や時間の設定を工夫していく。授業や行事の中で互いのよさを認め、多様性を尊重することで引き続き展開していく。 共生社会の実現に向け特別支援学級と通常学級の交流をすすめていく。
重 点 目 標 3	(1) 重点目標	仲間：多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育を推進する。
	(2) 数値による指標	「学校には、自分自身の活躍の場がある」と答える児童を80%以上にする。
	(3) 改善結果 ※学校の自己評価や学校関係者評価等の視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> 児童学校評価の数値結果は、80.4%であり、多くの児童が安心して過ごすことができたと言える。 大学教授等による児童理解研修や人間関係づくりについての研修、せたがやパブリックシアターによる授業等を定期的に設定しながら引き続き安心して自分を出すことができる仲間づくりを工夫していく。